

# これからの神戸のまちづくり 持続可能なまちをめざして

神戸市都市局都市計画課

近年、地球温暖化を取り巻く状況はめまぐるしく変化しています。神戸市においても、平成23年に「地球温暖化防止実行計画」を策定し、温室効果ガスの削減目標を定め、再生可能エネルギーの活用など様々な取り組みを進めてきました。

一方で、直接的なエネルギー施策だけでなく、私たちの日常生活を支えるまちづくりの中でも、環境配慮は重要な観点となっています。神戸市では、都市計画分野における環境配慮の計画として平成24年に「神戸スマート都市づくり計画」を策定し具体的な取り組みを進めています。

## 1. 都市計画と地球温暖化の関係

都市におけるCO<sub>2</sub>排出量のうち、およそ半分が都市計画に関連の深い分野から排出されているといわれています。具体的には、地域内や地域間の移動を担う「運輸部門」、まちを構成する最小単位である住宅や商業・業務施設である「家庭部門」「業務部門」です。CO<sub>2</sub>は都市活動に伴うエネルギー利用に起因して排出されます。これからの持続可能なまちづくりでは、都市におけるこれらのエネルギーのあり方から考える必要があります(図1、図2)。

## 2. 都市計画のそれぞれの分野とその目標

「神戸スマート都市づくり計画」では、多様な都市機能が集積し交通利便性が高い六甲山系南部の市街地や、鉄道に沿って住宅地や産業団地が島状に展開している六甲山系北・西部の市街地といった神戸の地形的な特性に応じて、総合的・戦略的に施策を展開するため「土地利用」「交通環境」「エネルギー」「水と緑」「マネジメント」の分野ごとに目標を定めています。

目標1 多様な都市機能がまとまった「コンパクトな土地利用」の誘導

方針① 都心域や連携・地域拠点等における多様な都市機能(商業・業務、住宅など)の集積

方針② 山麓部などの基盤が不十分な市街地における緩やかな低密度化の誘導

方針③ 徒歩圏に生活利便施設が立地した住環境の形成

方針④ 公共交通ネットワークの維持・形成と利用促進

方針⑤ 公共交通や歩行者・自転車重視した交通環境の整備

方針⑥ 環境負荷の少ない自動車利用環境の整備

図1 2019年 部門別最終エネルギー消費量の割合

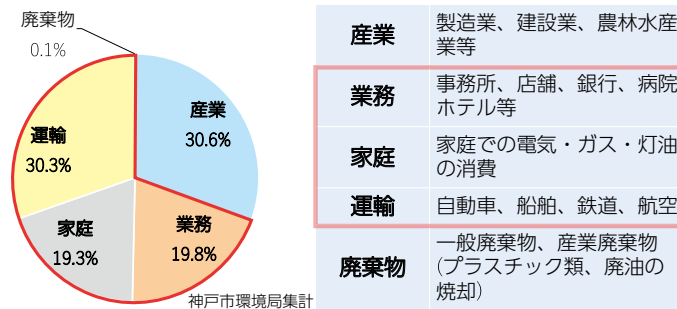
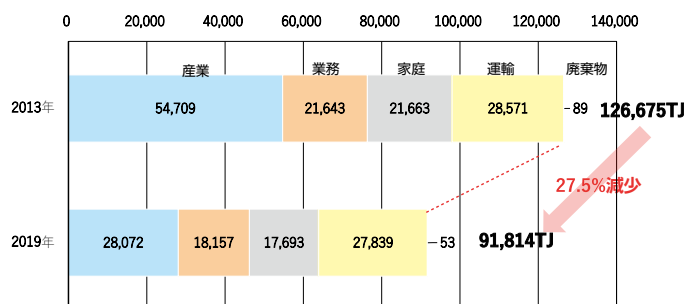


図2 最終エネルギー使用量の変化



**目標3** 多様な建築物の集積を活かした「効率的なエネルギー利用」の促進

方針⑦ エネルギー消費の削減と利用効率の向上

方針⑧ 未利用エネルギーの活用

方針⑨ 再生可能エネルギーの活用

**目標4** 海と山の豊かな自然環境と市街地

方針⑩ 山麓部・臨海部における良好な緑の保全・創出

方針⑪ 生物や風の通り道にもなる環境形成帯の創出

方針⑫ 水・緑・風を活用した熱環境の改善

**目標5** 協働と参画で進める「環境マネジメント」の導入

方針⑬ 選択と集中による戦略的な取り組みの推進

方針⑭ 協働と参画による環境と共生したわがまち空間づくり

方針⑮ 社会情勢の変化に柔軟に対応できる定期的な検証・評価と反映

### 3. 具体的な取り組み

現在、神戸市ではそれぞれの分野の方針に基づき、持続可能なまちの実現に向けて、取り組みを進めています。まちづくりの中の環境配慮は、単に環境の観点からだけでなく、様々な施策と関連しています。ここでは、現在、重点的に進めている交通環境とエネルギー分野の施策について紹介します。

図3 コミュニティバス



#### ① 人と環境にやさしい交通環境の形成

近年、人口減少・高齢化による公共交通の利便者の減少や路線バス等の乗務員不足などにより、交通事業者をとりまく社会情勢は非常に厳しくなっており、地域によっては交通事業者が事業性を確保しながら公共交通を担うことが難しくなっています。

一方で、自動車から鉄道・バスなどの公共交通への転換は、交通分野における環境負荷を下げ、観点からも重要になります。

神戸市では新たな公共交通の導入や地域交通の維持等、地域交通課題の解消に向けて、地

域・運行事業者・行政等の関係者による協働の取り組みに對して、様々な支援制度を設け、地域の実情に応じた多様な地域交通ネットワークの形成に取り組んでいます(図3)。

#### ② 効率的なエネルギー利用

建築物ごとのエネルギー効率の向上や再生可能エネルギーの導入については、建築物省エネ法により、一定規模以上の建築物については省

エネ基準へ適合することや、住宅についても省エネ基準への適合可否等を評価・説明することが義務付けられています。

神戸市では、これに加えて、大規模な面的開発や都市計画制度の緩和などを伴う開発については、その開発が与える環境負荷を配慮して、エネルギー効率の向上に向けた取り組みを指導することを進めています。

このような都市計画の取り組みは、施策の検討から実施、そしてその効果が発揮されるまで、一定の期間を要します。紹介した取り組みや、そのほかの分野においても、計画策定時からの社会情勢の変化をふまえながら、様々な取り組みを進めています。

### 4. 終わりに

「神戸スマート都市づくり計画」は、都市における環境負荷をおさえ、自然と調和して、きめ細やかに都市空間の質を高めることを目的に策定しました。

策定から9年経過した現在でも、地球温暖化対策は喫緊の課題であり、むしろ当時より、一層対応しなければならぬ状況になっています。

都市計画で目指しているスマート都市・持続可能なまちは、環境配慮の観点をもちながらも、住んでいる人や訪れた人にとっても快適に過ごせる環境を目標としています。誰もが住みやすい街を目指すことが、これからの都市計画に必要な取り組みであり、今後も実現に向けて進めていきます。